

社会・環境部会 平成21年度 秋の総会 議事次第

日 時 : 平成21年9月16日(水) 12時15分 ~

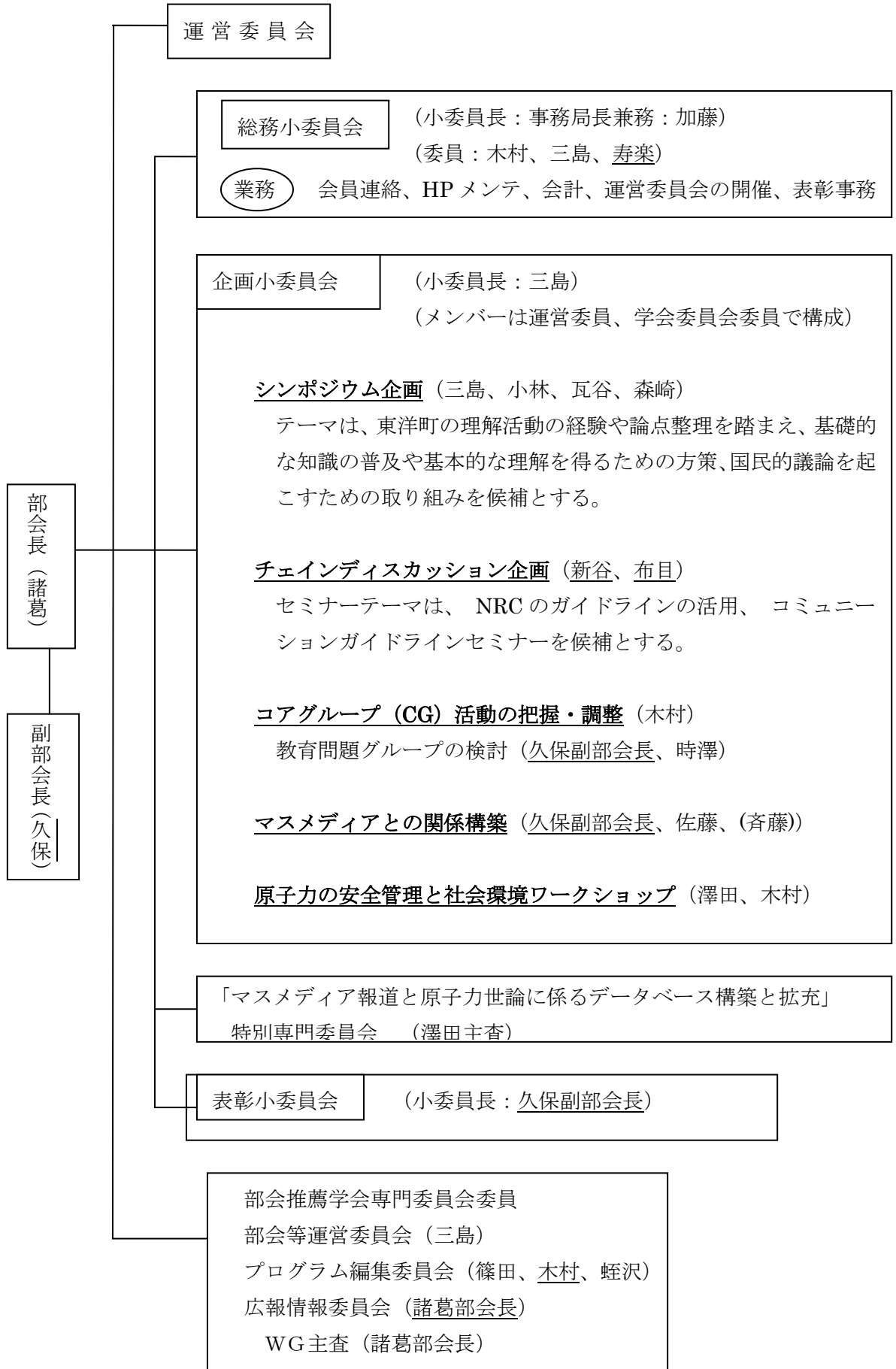
場 所 : 東北大学 青葉山キャンパス B会場

議 題

1. 部会長挨拶
2. 平成21年度部会運営体制
3. 平成20年度収支実績及び平成21年度予算について
4. 平成21年度活動状況の報告
 - ①部会主催のシンポジウム企画について (三島委員)
 - ②2009年秋の大会(9/16-18)企画セッション提案書 (三島委員)
 - ③コアグループ活動について (木村委員)
 - ④マスメディアとの関係構築について (久保副部会長)
 - ⑤「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップについて (澤田委員)
 - ⑥ポジション・ステートメントグループ活動について (蛭沢委員)

資 料	①平成21年度運営委員名簿、運営体制	P 1~2
	②平成20年度収支実績及び21年度予算	P 3
	③2009年度 国際フォーラム 開催概要	P 4
	④2009年秋の大会のチェーンディスカッション	P 5~6
	⑤コアグループ活動について	P 7~8
	⑥マスコミ関係者への原子力セミナー(勉強会)概要報告	P 9~10
	⑦第6回「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップの報告	P 11
	⑧ポジション・ステートメントグループの活動状況について	P 12

1. H21年度 社会・環境部会運営体制



運営委員

平成20年度運営委員

	名前	所属
会長	諸葛 宗男	東京大学
副会長	横手 光洋	原子力文化振興財団
企画小委員長	三島 毅	日本原燃
運営委員	佐藤 英俊	電気事業連合会
	瓦谷 泰浩	原子力安全/炉心研究所
	清水 昭比古	九州大学
	宇根崎 博信	京都大学
	森崎 利恵子	エネルギー広報企画舎
	久保 稔	日本原子力研究開発機構
	高橋 信	東北大学
	澤田 隆	三菱重工
	時澤 孝之	日本原子力研究開発機構
	大場 恭子	金沢工業大学
	田中 博	原子力発電環境整備機構
	小林 容子	テプコシステムズ
	木村 浩	東京大学
	蛭沢 重信	エネルギー総合工学研究所
事務局長	加藤 豊一	日本原電

平成20年度運営委員

	名前	所属
	諸葛 宗男	東京大学
	久保 稔	日本原子力研究開発機構
	三島 毅	大林組
	佐藤 英俊	電気事業連合会
	瓦谷 泰浩	原子力安全/炉心研究所
	清水 昭比古	九州大学
	宇根崎 博信	京都大学
	森崎 利恵子	エネルギー広報企画舎
	新谷 聖法	(株) ペスコ
	高橋 信	東北大学
	澤田 隆	三菱重工
	時澤 孝之	日本原子力研究開発機構
	布目 礼子	原子力発電環境整備機構
	寿楽 浩太	東京大学
	小林 容子	テプコシステムズ
	木村 浩	東京大学
	蛭沢 重信	エネルギー総合工学研究所
	加藤 豊一	日本原電

2. 平成20年度収支予算及び実績表

「1」通常予算	当年度予算	(見込額)
(1)前年度繰越金	9,397,198	9,397,198
(2)当年度収入		
本部配付金 収入	212,000	212,000
参加費 収入		
許諾抄録料 収入		
広告料 収入		
発送料 収入		
掲載料 収入		
有料会報代 収入		
論文集売上 収入		15,000
テキスト売上 収入		
セミナー残金 収入	30,000	30,000
協賛金 収入		
賛助金 収入		
寄付金 収入		
為替差損益		
H19 余剰金追加分		
H20 受託余剰金		516,600
その他 収入		
収入 計	242,000	773,600
(3)当年度支出		
臨時雇賃金 支出		
会議費 支出	20,000	2,800
旅費交通費 支出		745,689
通信運搬費 支出	10,000	8,755
消耗品費 支出		
一般外注経費 支出	150,000	150,000
会場費 支出		
委託費 支出		
諸謝金 支出	100,000	100,000
負担金 支出		2,092,000
助成金 支出		
通常予算補助金 支出		
管理費配賦額	56,000	56,000
内部共催金 支出		
その他 支出	1,883,000	
支出 計	2,219,000	3,155,244
当(月)年度収支尻(2-3)	-1,977,000	-2,381,644
翌年度 繰越金(1+2-3)	7,420,198	7,015,554

3. 2009年度 国際フォーラム 開催概要

2009年9月原子力学会秋の大会 社会環境部会総会
2009年度 高レベル処分場立地プロセスに関する国際フォーラム 開催概要

I. 趣旨

1. 昨年度開催の、原子力廃棄物を考える国際市民フォーラム「処分地問題の解決に向けて」（社会・環境部会とWIN-Jが共催）の続編
2. 続編の趣旨
 - ・ 昨年は、高レベル廃棄物処分場立地における民意獲得プロセスをテーマに、フィンランド、韓国、カナダ、フランス、日本から講演。
ープロセス、反省・教訓、何が大事か
 - ・ 今年度は、成功体験国の教訓、日本として見習う点等をテーマにする。スウェーデン、日本、英国からの講演と、講演者によるパネルディスカッションを予定。

II. 開催の具体的計画

- ・ 開催日時：来年1月30日（土）
- ・ 場所：虎ノ門ニッショーホール、確保している時間帯は9:00～16:30。
- ・ バックエンド部会及びWIN-JAPANと共催。

III. 予算

支出内訳	昨年実績(千円)	今回推定(千円)
会場費	(JAホール)401	(ニッショーホール)500
資料代(チラシ、当日配布物、報告書)	813	500
講師謝金・旅費(パネリスト、コーディネーター)	1,552	1,050
通信費	288	300
旅費、交通費	51	0
委託費(通訳、ビデオ編集、テープ起こし)	754	700
雑費(弁当、飲み物、文房具等)	181	200
合計	4,039	3,250

- ・ 今年度予算外支出として、申請の手続き中

4. 21年度コアグループ活動について

2009年9月16日

21年度活動計画 コアグループ活動について

現在、以下の2つが活動中。

- ファシリテーションフォーラム研究コアグループ
- 動画コンテンツ作成コアグループ

1. ファシリテーションフォーラム研究コアグループ

目的：社会へのコミュニケーション窓口機能における情報共有交換のための活動を実施する。現在、発電所見学に代わるコミュニケーション拠点と期待するPR館に着目し、その情報共有交換のためのプロジェクト（ComComプロジェクト）を実施中。

メンバー：○木村・勝木・倉谷・宮沢

現在までの実施状況：

- 第5回 ComCom ミーティング 2009年6月予定だったが、社会的情勢（新型インフルエンザ）を見て、延期。次回は2010年2月開催予定。
- ComCom ミーティング開催2年経ったということで、評価アンケートを実施（2009年8月）。評価結果は秋の大会で報告。
- ComCom ミーティングに関する論文を作成中（社会技術論文集に投稿予定）。
- ComCom ミーティングで出た提案をもとに、放射線に関する基礎知識涵養のためのスクラッチカード（低学年用）を作成。あるPR館に持ち込み、2009年8月に実際に使用してもらい、使用感を調査中。
- 情報交換媒体の検討1 ComCom ミーティング参加者のうち有志による、情報交換MLの開始（9月予定、準備は完了）。

今後の検討予定：

- 情報交換媒体の検討2 「かみこむ」の計画準備中。紙媒体のPR館の情報共有のための情報誌として。季刊の予定（年4回：1月、4月、7月、10月）。10月に第1号の予定。内容は創刊の目的、今回実施したアンケートの結果、次回 ComCom ミーティングのお誘い。基本的な予定としては、4月・10月 ComCom ミーティング報告号、1月・7月各地原子力関連施設・PR館紹介号（現在PR館職員は他の原子力施設になかなか見学にいけないので、疑似体験のためのレポートを作成する予定）。
- PR館・原子力関連施設紹介およびグッドプラクティス紹介のための調査（12月予定。島根原子力発電所に3名で行く予定。調整中。）

2. 動画コンテンツ作成コアグループ

目的：近年のインターネットの普及やブロードバンド化等の状況を考えると、手軽な動画コンテンツがパブリックアウトリーチの手段として有用になってきたと考えられる。そこで、原子力パブリックアウトリーチに使用できる動画コンテンツを作成することを目指して活動する。

メンバー：○木村・森崎・久保

現在までの検討状況

- ・ 2009年6月24日に第1回会合
- ・ 動画の方向性を検討。講義的な動画と、人物紹介的な動画。時間は短くなければ見ない。5分程度。
- ・ 講義的な動画として、学会のステートメントの解説を短い動画にしてはどうか。→第一弾として諸葛部会長にご承諾いただいた段階。
- ・ 人物紹介的な動画として、原子力業界でがんばる女性に焦点をあててはどうか。→東大原子力専攻出身の方に依頼し、1名について承諾いただきたい段階。
- ・ その他、学生にも打診中。
- ・ 11月、12月までには、第一弾の動画を作成予定。

以上

5. マスコミ関係者への原子力セミナー（勉強会）概要報告

平成 21 年 8 月 24 日
日本原子力学会
社会・環境部会
マスコミとの関係強化 Gr.
久保、斉藤、佐藤

マスコミ関係者への原子力セミナー（勉強会）概要報告

1. 開催日時およびテーマ

(1) 日時 : 平成 21 年 8 月 11 日 (火)

17 : 40 ~ 19 : 30 (個別質問対応 19 : 30 ~ 20 : 00)

(2) テーマ : プルサーマル計画について

現在、原子力発電所（軽水炉）からの使用済み燃料を再処理して、取り出したプルトニウムを軽水炉の燃料として有効利用するプルサーマル計画が進められている。今回は、プルサーマル計画におけるプルトニウムの特徴、最近のプルサーマル計画等について、セミナーを開催した。

2. 開催場所 : 日本原子力学会事務局会議室(新橋第二中ビル 3 階)

3. 講師 岩田 修一教授 (東京大学)

4. マスコミ等の出席者 11 紙(13 名) (あいうえお順)

NHK (2 名)、科学新聞 (1 名)、原産新聞 (1 名)、原子力学会誌 (1 名)、産経新聞 (1 名)、電気新聞 (1 名)、東京新聞 (1 名)、日刊工業新聞 (1 名)、日経新聞 (1 名)、北海道新聞 (1 名)、読売新聞 (2 名)

5. 概要

(1) 講師の岩田修一先生から配布資料に基づき説明を行った。

(2) 参加の記者から活発な質疑があり、岩田講師から丁寧な回答があった。主な質疑応答は以下のとおり。

Q : プルサーマルの本音は余剰 P u の処理ではないのか？

A : 技術的要素もあるが、P u の使用実績を作ることは国際政治上ものすごく大きい。P u 利用のオプションが広がる。選択肢がなくなるのは問題。エネルギー戦略的に、今やっておく必要がある。

Q : もんじゅが動いていれば状況は違ったのではないか？

A : ナトリウム洩れなど、10 年以上も停止しなければならないほどの大きな技術的問題では無かった。技術的に解決可能な問題であるというって頑張るべきで、原子力関係者としてエネルギーセキュリティ、供給に対する執念が足りなかったと反省している。

Q : もんじゅのナトリウム洩れは確かふげんの廃炉を決めたのと同じ日。原子力に関する戦略性が全くなかったということか？

A : そう言えるが、2004 年から 2008 年までの原油価格の推移を見れば、原子力がなかったらこれほどの価格の変化に日本の社会は耐えられなかったのではないだろうか。

Q : 原子力については多くの大学で冠を引っ込めたが、東大では次世代は育てているのか。

A : 東大には世界のリーダーを育てる役割もあると考えているが、世界のために働く人材が減っているように思われる。P uサーマルはキチンとやれば出来る技術。社会がP uサーマルに不安を感じることは、原子力関係者側の情報発信力が弱いことにも起因している。

Q : 民主党の党首は理系。民主党が政権をとったら原子力政策が変わるかもしれない。働きかける先についてもっと学会は頭を使ったらどうか。

A : おっしゃるとおり。理系、文系と分ける必要は無くなってきている。

Q : アメリカの原子力学会の情報発信力は日本の原子力学会と比べてどうだろうか？

A : 他分野と比較では情報の発信はそれほど熱心ではなく、日本と同じくらい。マーケットがクローズしている分、情報発信は日本よりコンサバだと思う。着目すべきは受け手との双方向のコミュニケーションの問題であると思う。

6. その他

セミナー後、4 社から問い合わせがあり、テーマの「プルサーマル計画」の関心の高さが分かった。また、配布された資料のコピーを入手したいとの 3 社からの要望があり、岩田先生の確認の後、手渡した。

以 上

6. 第6回「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップの報告

日 時： 平成21年9月7日（月） 13：00～17：30
場 所： 東京大学 浅野キャンパス 武田先端知ホール
主 催： 日本原子力学会社会・環境部会／ヒューマンマシンシステム部会
日本品質管理学会
グローバルCOEプログラム「世界を先導する原子力教育研究イニシアチブ」（東京大学原子力国際専攻）
後 援： 原子力安全・保安院，原子力安全基盤機構
協 賛： 日本保全学会，非特定営利活動法人シンビオ社会研究会
参加費： 無 料
定 員： 約 100 名

【開催趣旨】

原子力施設の安全を確保するためには、施設・設備のハードの健全性を中心とした安全規制だけでなく、運営管理などの人的要因にも目を配る、いわゆるソフト面の安全規制が重要であると認識されて久しい。これまでソフト面での安全確保に関して、多くの研究開発が行われ、また規制制度も見直されてきたにもかかわらず、トラブルや不祥事は減っていない。そこで、原子力の安全管理と社会環境に関する研究開発の現状と課題、事業者と規制当局の関連する事項の実施状況と課題などを持ち寄り、関係者の共通認識とした上で、行うべき研究開発の課題や方向性、事業者や規制当局が実施すべき事項などを充実するための手がかりとしたい。

上記の趣旨で平成19年3月8日に第1回ワークショップを開催して以来、今回で6回目となる。今回は、他事業者・他発電所の失敗事例や成功事例を学び、同じ失敗を繰り返さないよう、成功を着実に続けられるようにするにはどのような取り組みを行えばよいかについて異なった領域の専門家からの講演・事例発表をいただくとともに、パネルディスカッションを通じて幅広く議論する。

【プログラム】

13:00-13:05	開会挨拶・趣旨説明	班目 春樹（東京大学）
13:05-13:25	「事業者・発電所間の失敗・成功事例の共有を促す」	上戸 亮（原子力安全・保安院）
13:25-14:00	「現場の具体的事例：RCAを用いて事故・トラブルを分析する」	倉田 聡（中部電力） ポイント解説 中條武志（中央大学）
14:00-14:30	「原子力発電所における事故・トラブルの横断的分析」	鈴木和幸（電気通信大学）

- 14:30-15:00 「トラブルゼロを目指した現場の取り組み」 藤井大士（関西電力）
- 15:00-15:30 「ヒューマンパフォーマンス問題とその取り組みについて
ー世界の原子力事業者の動向ー」 岩城克彦（WANO）
- 15:30-15:45 休憩
- 15:45-17:25 パネルディスカッション「失敗と成功から学ぶ」
コーディネータ：飯塚 悦功（東京大学）
パネラー：上戸 亮（原子力安全・保安院）、
倉田 聡（中部電力）
中條武志（中央大学）、鈴木和幸（電気通信大学）
岩城克彦（WANO）
- 17:25-17:30 閉会挨拶

7. ポジション・ステートメントグループの活動状況について

2009年9月4日

日本原子力学会

社会・環境部会

ポジション・ステートメント担当 蛭沢

平成21年度 ポジション・ステートメントグループの活動状況について

1. 平成21年度第1回ポジション・ステートメントWGr.

1.1 日時 : 2009年6月24日(月) 10:00~12:00

1.2 審議事項

- (1) 新委員紹介(原子力発電部会、バックエンド部会)
- (2) ポジション・ステートメント作成目的の確認と若干の修正。
- (3) ポジション・ステートメント作成要領の再確認と若干の修正。
- (4) 本年度テーマの確定。当部会テーマは、「原子力発電の二酸化炭素削減効果」
- (5) 英語版の作成。今年度上期に、昨年度作成の9件の英語版を作成することを決定。
- (6) 作成スケジュール(上期分および昨年度英語版)
 - ① 9月中旬: 第2回WGr.原案持ち寄り
 - ② 11月下旬: 第3回WGr.原案決定
 - ③ 11月下旬以降会員意見公募
 - ④ 2010年1月: 運営ボードで決定
 - ⑤ 2月頃: 作成完了、公表

2. 当部会担当テーマ「原子力発電の二酸化炭素削減効果」について

1.1 構成案

- (1) 低炭素社会にむけた国際的取り組みとわが国の取り組み方針(背景)
- (2) 「原子力はわが国ゼロ・エミッション電源の中核」を妥当とみる
- (3) 火力発電(LNG)を原子力で代替する場合のCO₂削減効果
- (4) 原子力の設備利用率向上によるCO₂削減効果
- (5) 運輸燃料の脱化石資源化に対し原子力エネルギーの活用効果(間接的効果)
- (6) 二酸化炭素削減に対し、実証された技術で大きな効果をもたらす唯一の電源であることをメッセージとする

- 1.2 担当原案作成→関係者コメント→部会員コメント(学会員コメントと同時か?)
→修正の上部会案→上記スケジュール②へ。